

今日のトピック ブラジルの金融政策は現状維持（2018年6月）

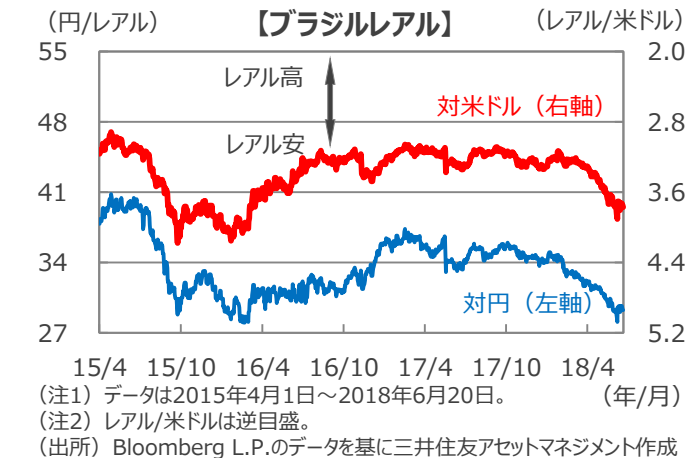
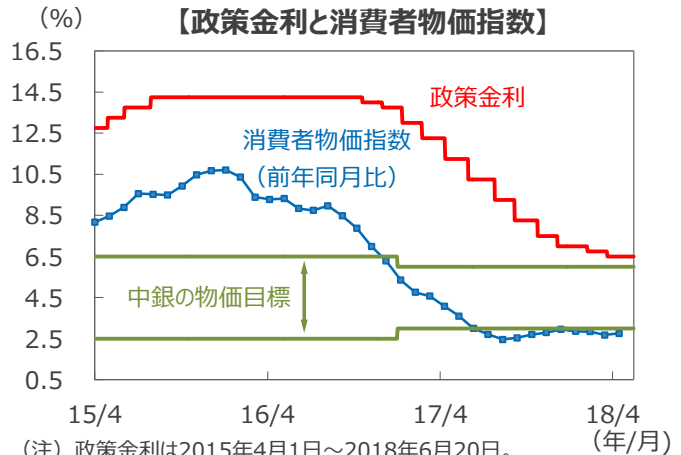
政策金利を2会合連続で据え置き

ポイント1 6.50%に据え置き 市場の予想通り

- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、6月20日の金融政策委員会で、政策金利を6.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利据え置きは2会合連続で市場の予想通りでした。

ポイント2 ガイダンスを変更 通貨安やストの影響を警戒

- 中銀は、声明文で経済・インフレ見通しとリスクのバランスを考慮し、政策金利を据え置いたと説明しました。5月の消費者物価は前年同月比+2.86%と物価目標レンジ（+3~6%）を引き続き下回っており、今後もインフレの落ち着きを見込んでいるためです。
- 一方、中銀は、5月に起きたトラック運転手による大規模ストライキによって、経済の評価が難しくなったと指摘しました。この影響で一時的にインフレ圧力が高まるとみられます。また、通貨安によるインフレへの2次効果も警戒しています。
- 中銀は、前回の声明文のガイダンスでは、次回の政策金利を維持する姿勢を示していましたが、今回は、その文言を削除しました。今後の示唆を示さなかったことで、引き締めも選択肢となる可能性が出てきました。



今後の展開 レアルは上値の重い展開

- 中銀の金融政策現状維持を受け、通貨レアルは20日、対米ドルで1ドル=3.77レアル台で引けました。レアルはトラック運転手のストライキなどが嫌気され、一時3.9レアル台に下落しましたが、中銀による通貨スワップを用いた為替介入を受けてやや反発しています。しかしながら、米利上げ見通しが今年3回から4回に変わり、ドル高に伴う新興国からの資本流出圧力がかかるなか、大統領選挙を今年の10月に控えた政局の不透明感も逆風となることから、レアルは当面上値の重い展開となりそうです。

ここもチェック! 2018年5月31日 ブラジルの経済・市場動向（2018年5月） 2018年5月17日 ブラジルの金融政策は現状維持（2018年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。